

決算説明会

2023年3月期 第3四半期

ミネベアミツミ株式会社

2023年2月3日

吉田です。

2023年3月期第3四半期の連結実績についてご説明します。

3Q連結業績サマリー

売上高は四半期として過去最高

(百万円)	2022年3月期 3Q	2023年3月期 2Q	2023年3月期 3Q	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
売上高	304,348	330,021	371,424	+22.0%	+12.5%
営業利益	25,832	26,394	26,432	+2.3%	+0.1%
税引前利益	25,122	28,184	20,463	-18.5%	-27.4%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	18,395	20,060	13,148	-28.5%	-34.5%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	45.42	48.62	31.87	-29.8%	-34.5%

為替レート	2022年3月期 3Q	2023年3月期 2Q	2023年3月期 3Q
US\$	112.47円	135.32円	144.25円
ユーロ	130.44円	139.28円	143.93円
タイバーツ	3.39円	3.79円	3.89円
人民元	17.52円	20.05円	20.22円

2023/2/3

2

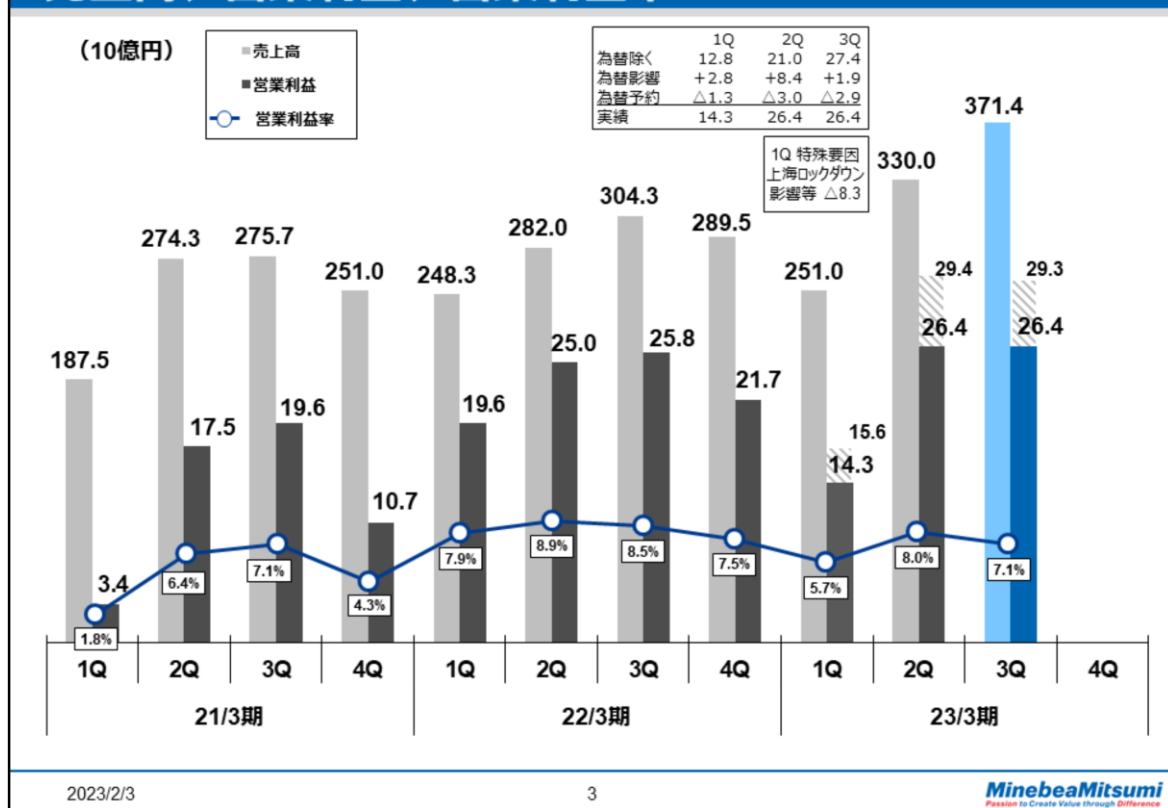
MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference

2023年3月期第3四半期の連結業績は、売上高は、前年同期比で22.0%増、前四半期比12.5%増の3,714億2,400万円となりました。営業利益は、前年同期比で2.3%増、前四半期比0.1%増の264億3,200万円となりました。親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比で28.5%減、前四半期比で34.5%減の131億4,800万円となりました。

売上高は四半期として過去最高となりました。

為替の影響は、売上高で前四半期プラス153億円、前年同期比プラス572億円、営業利益は前四半期比でプラス35億円、前年同期比はプラス77億円との推計です。

売上高、営業利益、営業利益率



売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。

第3四半期の営業利益率は7.1%となりました。これは前年同期比では1.4ポイント低下、前四半期比では0.9ポイントの低下となりました。

なお、当社では為替の先物予約を行ってございました関係で、足元での想定以上の為替変動の影響により営業利益でマイナスの影響がありました。

為替影響につきまして、1Q・2Qと同様に、フキダシの中で当社の試算をお示しておりますのでご覧ください。

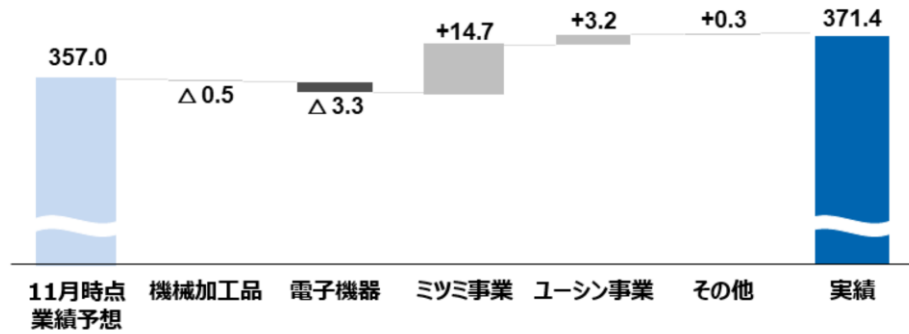
第3四半期の営業利益には為替の影響がプラス19億円、為替予約の影響がマイナス29億円含まれていたものと試算しています。

従いまして、為替予約の影響がなかったと仮定した場合の営業利益は293億円と試算しています。

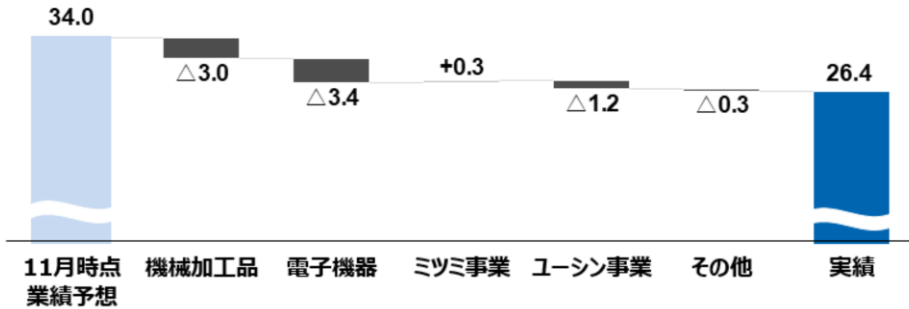
3Q実績 11月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高



営業利益



2023/2/3

4

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value Through Difference

これは、第3四半期の売上高、営業利益の実績につきまして、11月の決算発表時の業績予想からの差異についてセグメント別に示したものになります。

売上高においては、機械加工品は、ベアリングは想定を下回ったものの、航空機向けが好調に推移し、全体では概ね想定通りとなりました。電子機器は、主にHDD向けモーターの減速により想定を下回りました。ミツミ事業においては、機構部品を中心に想定を上回りました。ユーシン事業においては自動車向けビジネスを中心に想定を上回りました。

営業利益においては、機械加工品は、ベアリングの生産調整により収益性が若干低下し、想定を下回りました。電子機器は、売上の減少に伴い、若干想定を下回りました。ミツミ事業においては、概ね想定通りとなりました。ユーシン事業は若干想定を下回りました。

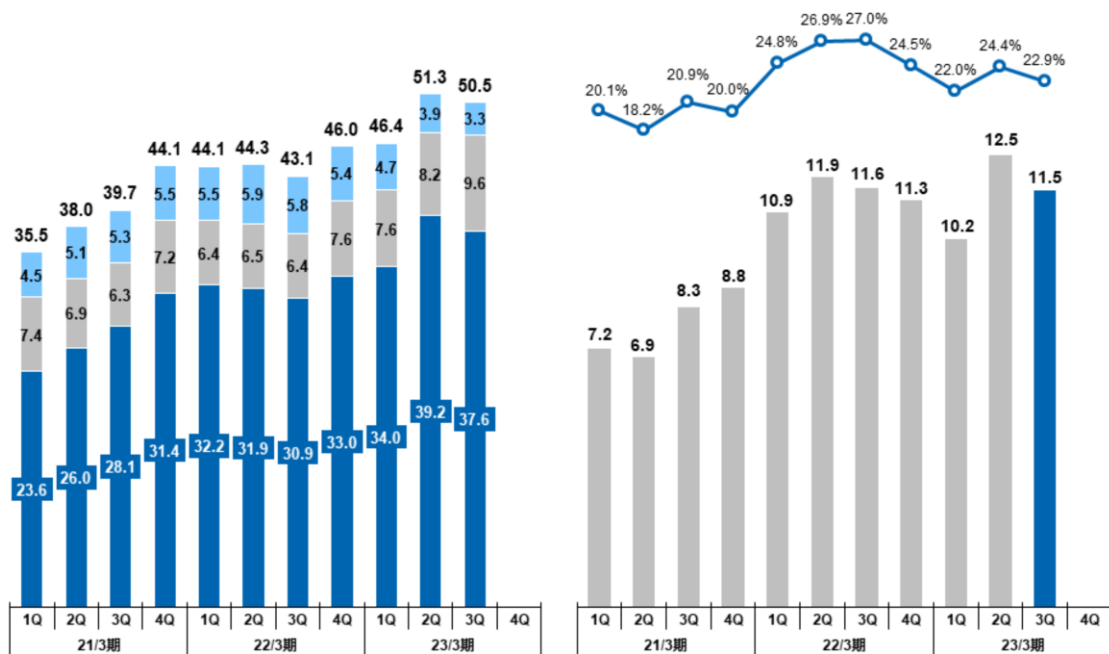
機械加工品セグメント

売上高 (10億円)

■ ボールベアリング ■ ロッドエンド・ファスナー ■ ピボットアッセンブリー

営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率



2023/2/3

5

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value Through Difference

こちらは機械加工品セグメントの四半期ごとの推移です。

左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第3四半期の売上高は505億円、前四半期から1.6%の減少となりました。

ボールベアリングの売上高は376億円、前四半期比で4.1%の減少となりました。外販数量は月平均で2億2500万個、前四半期比で10.4%減でした。これは、データセンター向けを中心とした市場減速によるものです。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は96億円となり、前四半期比で16.5%の増加でした。航空機生産の回復に伴い、増収となりました。

ピボットアッセンブリーは33億円となり、前四半期比で14.3%の減少となりました。

営業利益ですが、当四半期は115億円、営業利益率は22.9%となりました。営業利益は前四半期比7.8%の減少となり、営業利益率では1.5ポイントの低下となります。

製品別では、ボールベアリングとピボットアッセンブリーは前四半期比で減益、ロッドエンド・ファスナーは増益となりました。

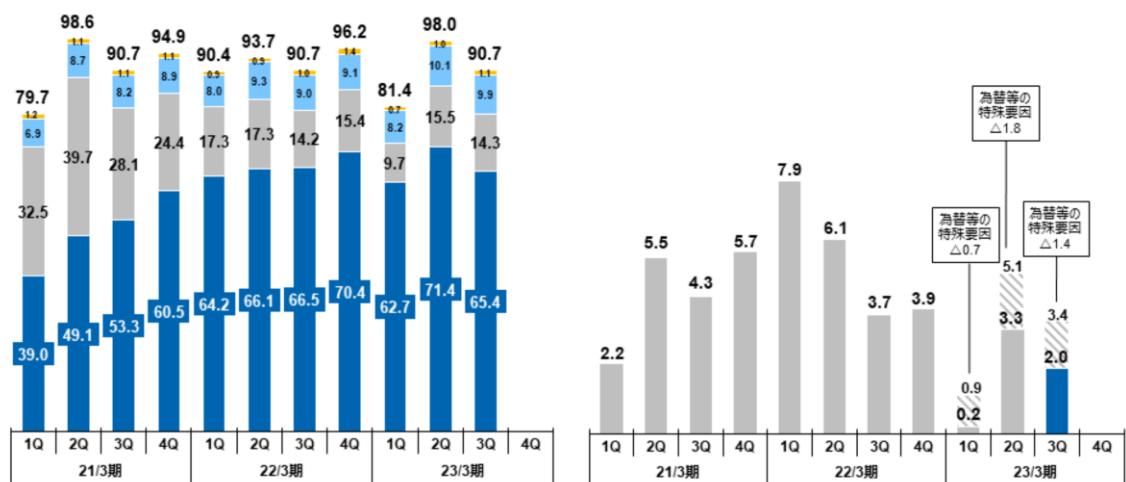
電子機器セグメント

売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他

営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率



6

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference

こちらは電子機器セグメントの四半期毎の推移です。

売上高は907億円、前四半期比で7.5%減となりました。

製品別では、モーターは前四半期比8.3%減の654億円となりました。これは、主にHDD向けモーターの需要の減少によるものです。

エレクトロデバイスは143億円、前四半期比7.8%の減少となりました。これは、LEDバックライトで主要顧客のモデルの販売が減少したことによりです。

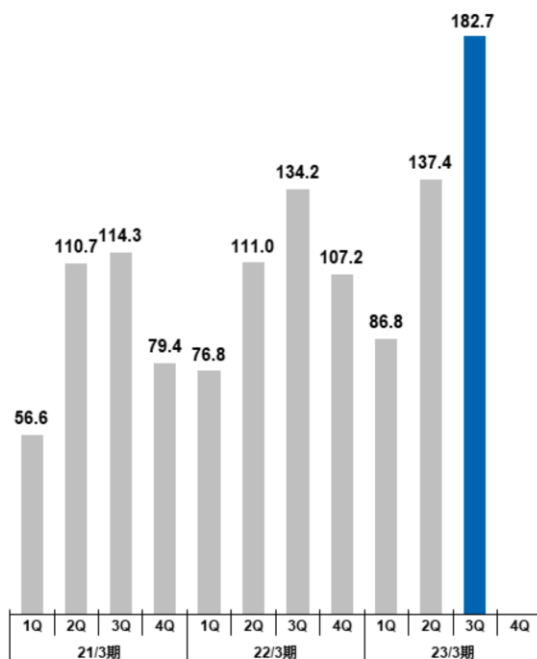
センシングデバイスの売上高は99億円となり、前四半期比で2.4%減少しました。

営業利益は20億円、営業利益率は2.2%となりました。前四半期比では営業利益で37.8%減少、営業利益率は1.1ポイント低下となりました。

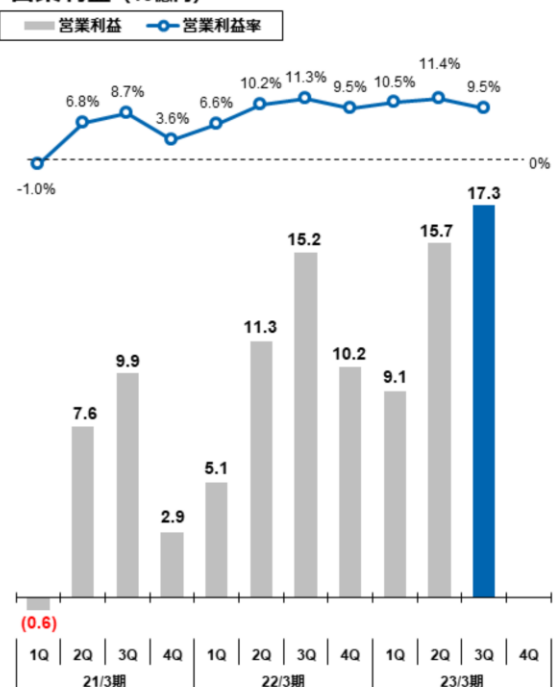
なお、特殊要因として前述の為替等の影響がマイナス14億円あったものと試算しています。

ミツミ事業セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2023/2/3

7

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value Through Difference

ミツミ事業セグメントの四半期毎の推移です。

なお、第3四半期から11月1日をもって連結子会社としましたミネベアコネク（旧住鋳テック）の業績が含まれています。

売上高は1,827億円と、前四半期比33.0%の増加でした。

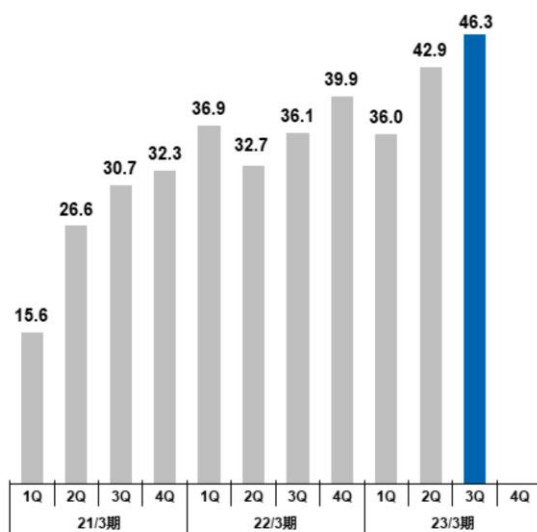
これは、光デバイス、機構部品における季節性を伴った増収などによるものです。

営業利益は173億円となり、営業利益率は9.5%となりました。前四半期比10.7%増、営業利益率で1.9ポイント低下となりました。

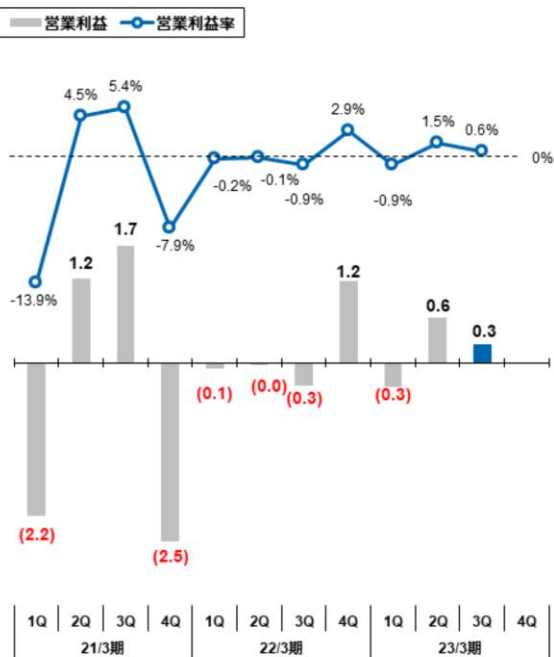
なお、この数字にはミネベアコネク（旧住鋳テック）の負ののれん17億円を含めております。これを除いた場合の営業利益は156億円、営業利益率は8.6%となり、前四半期比横ばい、営業利益率は2.8ポイントの低下となります。これは、主に製品構成の変化によるものです。

ユーシン事業セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2023/2/3

8

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value Through Difference

ユーシン事業セグメントの四半期ごとの推移です。

売上高は463億円、前四半期比で7.9%の増加となりました。

これは、地域や顧客により状況が異なるものの、自動車生産が徐々に回復していることにより
ます。

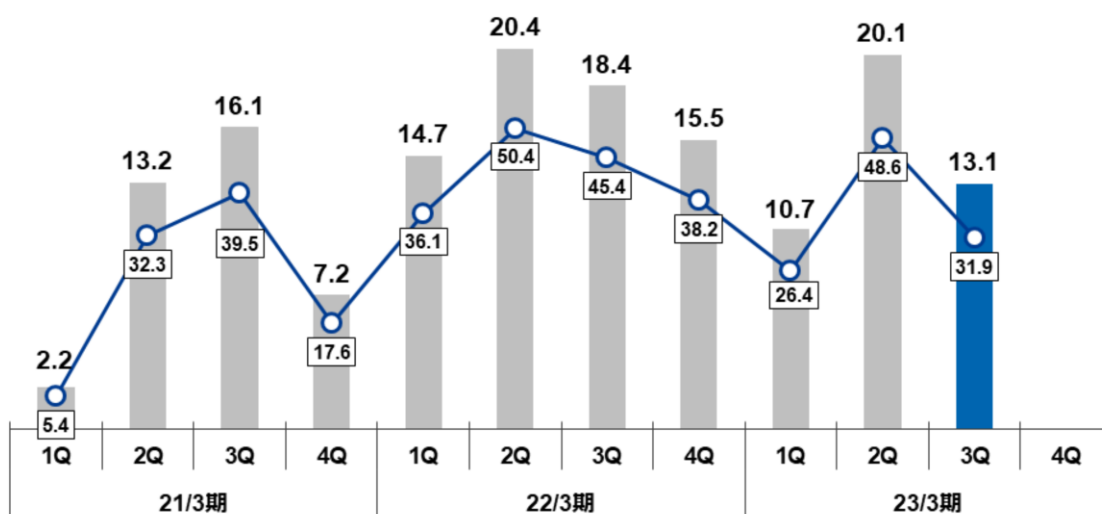
営業利益は3億円、営業利益率は0.6%となりました。

前四半期比59.7%減、営業利益率で0.9ポイント低下となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益
○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



2023/2/3

9

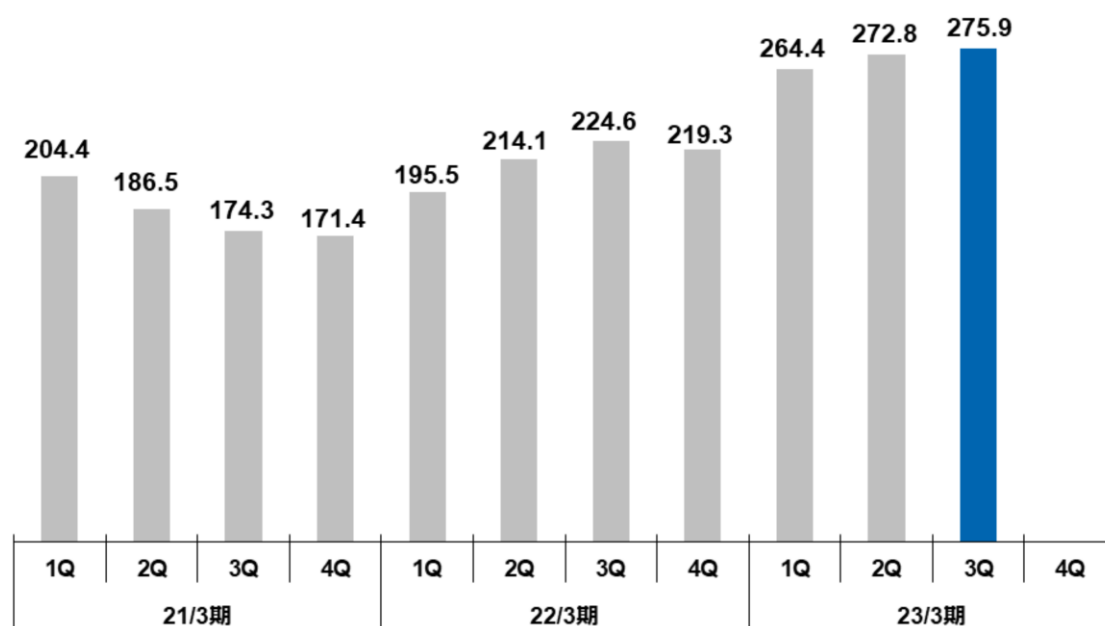
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このスライドは、親会社の所有者に帰属する四半期利益の推移を棒グラフで、1株当たり四半期利益の推移を折れ線グラフで表しています。

四半期利益は131億円、1株当たりでは31.9円となりました。

棚卸資産

(10億円)



2023/2/3

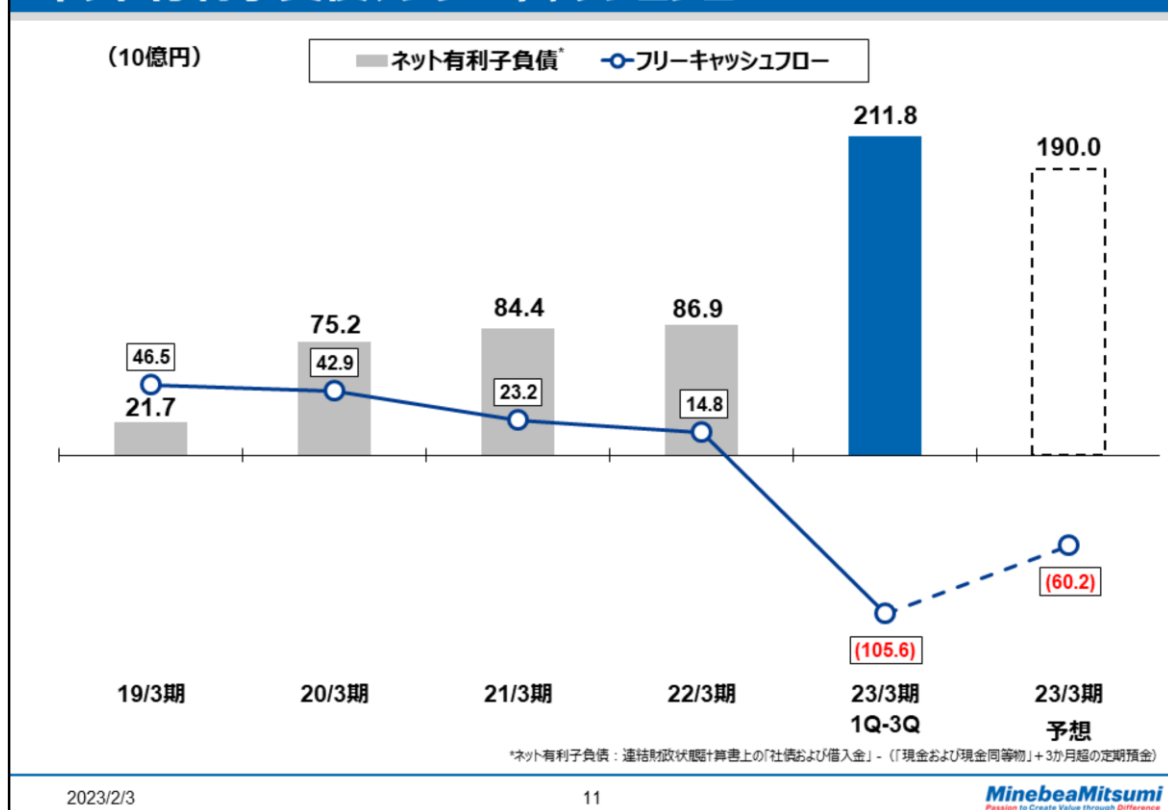
10

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

続きまして、棚卸資産の四半期ごとの推移です。

第3四半期末は2,759億円となり、3カ月前と比べると31億円の増加となりました。

ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しています。

第3四半期末におけるネット有利子負債は2,118億円となり、2022年3月末から1,249億円増加しました。

業績予想

通期業績予想を修正 売上高、営業利益等、すべて過去最高を更新へ

(百万円)	2022年3月期	2023年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,124,140	581,061	718,939	1,300,000	+15.6%
営業利益	92,136	40,649	59,351	100,000	+8.5%
税引前利益	90,788	42,458	52,542	95,000	+4.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	68,935	30,794	40,206	71,000	+3.0%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	170.08	75.22	97.54	172.76	+1.6%

為替レート	2022年3月期 通期	2023年3月期 4Q想定
US\$	111.55円	125.00円
ユーロ	130.47円	135.00円
タイバーツ	3.44円	3.85円
人民元	17.35円	19.00円

2023/2/3

12

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference

2023年3月期の通期業績予想について、売上高は1兆2,500億円から1兆3,000億円に上方修正、営業利益は1,150億円から1,000億円に下方修正いたしました。

なお、営業利益予想には、M&Aに伴う負ののれんなどの一時的な収益および構造改革費用が含まれています。

売上高、営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益のいずれも、過去最高を更新する見込みです。

想定レートについては、1ドル125円を想定しています。

セグメント別業績予想

(百万円)	2022年3月期 通期	2023年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,124,140	581,061	718,939	1,300,000	+15.6%
機械加工品	177,470	97,688	97,312	195,000	+9.9%
電子機器	371,023	179,405	184,595	364,000	-1.9%
ミツミ事業	429,116	224,164	318,836	543,000	+26.5%
ユーシン事業	145,577	78,946	116,054	195,000	+33.9%
その他	954	858	2,142	3,000	3.1倍
営業利益	92,136	40,649	59,351	100,000	+8.5%
機械加工品	45,717	22,726	21,274	44,000	-3.8%
電子機器	21,561	3,463	3,537	7,000	-67.5%
ミツミ事業	41,846	24,793	25,207	50,000	+19.5%
ユーシン事業	732	301	3,699	4,000	5.5倍
その他	△1,429	△692	△308	△1,000	-
調整額	△16,291	△9,942	5,942	△4,000	-

2023/2/3

13

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

なお、1月27日をもって連結子会社としたミネベア アクセスソリューションズ(旧ホンダロック)の売上・利益は、下半期のユーシン事業セグメントに含まれています。

以上で私からのご説明を終わります。

全体

- 3Qはデータセンター関連を中心とした市場減速による販売減と急激な為替変動などの影響により、**営業利益は未達となった。**
- 上記を踏まえて4Qは稼働の抑制を行うが、通期の営業利益は**ついに1,000億円を達成へ。**
- 固定費を圧縮、コネクタ及びアクセス製品のシナジーを加速し、**来期の成長**にむけた布石を打つ。

機械加工品

- ボールベアリングは生産減の影響により収益性が若干低下。
- 航空機関連はいよいよ本格的な回復局面へ。

電子機器 ミツミ事業

- モーター事業はHDD市場の調整影響あるも、それ以外のモーターは概ね堅調に推移。HDDは12月が底で客先在庫調整は終了。
- ミツミは経営統合以前を含め**過去最高益達成へ。**
- アナログ半導体は若干減速も、高い収益性を維持。

ユーシン事業

- ホンダロックの統合による収益の上乗せ。
- 高付加価値製品へのシフトを継続。

2023/2/3

14

貝沼です。

それでは私から、本日のポイントについてご説明します。

3Qは、10－11月は堅調だったものの、12月に突然のスローダウンがありました。ベアリング、HDD向けモーター、バックライト、半導体、ゲーム、OISなど、程度の差はあるものの、当社の収益基盤がおしなべてスローダウンしてしまった状態でした。

本来我々のように様々な産業に製品を納めている会社は、一つ二つの事業が悪くなったとしても他がカバーするものですが、とても航空機だけではカバーができなかったというのが実情です。

ただ、HDD関連については、お客様の在庫調整は完了したという情報があり、12月に底打ちし、1月から3月に向けて回復を見込んでいます。あとは、サプライチェーンにおけるHDDの在庫が解消していけば、来期には回復できると考えています。

また、今期はポジティブなイベントとネガティブなイベントが交錯した状況となっています。12月には為替が大きく変動し、円安時に仕入れた部品を円高時に販売することになるなど、ネガティブな影響がありました。また今期は為替予約の影響でマイナス90億円程度を見込む一方で、東京本部の売却益130億円があり、ネガティブイベントをポジティブイベントでカバーする状況になっています。

そうしたなかで今期の業績予想を修正しましたが、来期の収益向上に向けて、今期中に構造改革を積極的に実施していきたいと思っています。

通期業績予想を修正

**さらなる体質強化のための構造改革を実施するも
一過性の収益を含め、営業利益1,000億円を達成する**

- 今回実施したM&Aに伴う負ののれんによるアップサイド
- 販売減、急激な為替環境悪化の影響によるダウンサイド

(百万円)

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期			
		1Q - 3Q実績	4Q予想	通期予想	前期比
売上高	1,124,140	952,485	347,515	1,300,000	+15.6%
営業利益	92,136	67,081	32,919	100,000	+8.5%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	68,935	43,942	27,058	71,000	+3.0%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	170.08	107.06	65.70	172.76	+1.6%

2023/2/3

15

今期は、純粋な事業利益としての1,000億円達成は困難となってしまいましたが、アップサイド要因がダウンサイド要因をカバーすることにより、我々の大目標であった営業利益1,000億円を達成することができる見込みです。

来期には、イベントがなくても営業利益1,000億円を軽く超えていくことができる収益・事業体制が確立できていると信じています。

事業利益ベースでの増益へ

外部環境の改善

半導体不足：影響を受けたすべての市場の回復
COVID-19：ウィズコロナによる正常化
航空機関連：完全復活へ



ベアリング

在庫調整の終了と自動車・データセンターは回復へ



航空機関連

営業利益は下半期までにコロナ前の水準まで回復



モーター

顧客生産調整終了、自動車向けは引き続き大きく成長



アナログ半導体

好調継続に加え、滋賀工場の収益寄与



OIS

引き続き堅調を維持、歩留まり改善に全力を傾注する



アクセス製品

ユーシンの利益改善に加え、ホンダロックの寄与

不透明な状況

マクロ経済の減速：需要の鈍化
金利・為替の変動：事業環境の悪化
インフレの進行：原材料費、経費の上昇

2023/2/3

16

こちらが、来期の我々の収益基盤です。

外部環境が改善すれば、ベアリングと航空機などの機械加工品で約500～550億円、モーターはHDDが回復すれば200億円、半導体はどんなことがあっても250億円、そしてOIS、ミネベアアクセスソリューションズ(旧ホンダロック)が加わるアクセス製品などを合わせ、本社経費を差し引いても、1,000億円の営業利益を十分達成できていると思っています。

現在の外部環境はテクノロジーの変化などによって市場がなくなってしまうというような深刻なものではなく、循環的な景気の減速であると考えています。半導体不足の影響についても、スマートフォンでは限られた数量の半導体を高付加価値モデルに割り当てて使用するのが今期のトレンドでしたが、その結果として廉価版モデルの需給はかなり逼迫しており、半導体不足が解消されれば潜在的な需要が喚起されていくと考えています。

革新的な精度向上により回転性能を向上

社会的課題の解決へ貢献



期待される効果

- ↑ トルク低減によるモーター効率の向上
- ↑ 静粛性・製品ライフの向上
- ↓ CO₂排出量の削減

想定される用途

- ・エアコン用
- ・データセンター用
ファンモーター
- ・家電モーター など

今年度内に
量産開始予定

来年度後半に
月産350万個へ

2023/2/3

17

既にご案内をしていたスーパーベアリングが量産を開始しました。サンプル出荷をしたお客様からは、回転トルクが40%低減されることによりモーター効率が大きく上がる点を高く評価いただいています。

2023年3月に量産を開始し、2023年度後半には、ファンモーター用で月産1,500万個程度、エアコン用で月産1,000万個程度のスーパーベアリングを販売していく計画です。

現在特許も申請をしており、この性能や効果が差別化に繋がり、我々のベアリングの収益をさらに押し上げるものになると思っています。

現在データセンターは発熱への対応が求められていますので、モーター効率の向上はCO₂削減にも直結する大きな効果が期待されます。販売価格も少し高めに設定したいと考えています。

ミネベア アクセスソリューションズ (旧ホンダロック) とユーシンでのシナジー

製品シナジー (クロスセルの推進)

	ユーシン	MAS
ドアラッチ	○	×
スピンドルドライブユニット	○	×
ヒーターコントロール	○	×
オーバーヘッドコントロール	○	×
ドアミラー	×	○
ホイールセンサー	×	○
キックセンサー	×	○

*MAS = ミネベア アクセスソリューションズ



拠点シナジー① (生産能力と拡大分吸収)

	ユーシン	MAS
中国 (中山)	○ ←	×
タイ	○ ←	×
メキシコ	×	○ →
ブラジル	×	○ →

拠点シナジー② (新たな拠点の獲得)

	ユーシン	MAS
ヨーロッパ	○	×
アメリカ	×	○
ベトナム	×	○
インドネシア	×	○

2023/2/3

18

当初予想よりも時間がかかりましたが、ようやく独禁法のクリアランスを取得でき、1月27日にミネベア アクセスソリューションズ (以下MAS、旧ホンダロック) が当社に仲間入りしました。

このスライドでは、ユーシンとMASのシナジー、どのように成長し、成長させていくかをまとめています。

まず製品シナジーとして、ユーシンにありMASにない製品として、ドアラッチ、スピンドルドライブユニット、ヒーターコントロール、オーバーヘッドコントロールがあります。一方で、MASにありユーシンにない製品は、ドアミラー、ホイールセンサー、キックセンサーとなります。

キックセンサーでは既に新たに購入いただけることになったお客様もありますが、こうしたクロスセルをいかに促進していくかが一つの大きなポイントになります。

生産能力のシナジーについて、スライドでお示ししている4つの地域においては、双方に拠点があることから、お互いに補完することができるようになります。

例えば中国 (中山) では、MASではスペースがなく設備の老朽化も進み、増産対応に向けて新工場が必要でしたが、ユーシンの工場内のスペースを活用することができます。メキシコ・ブラジルに関しては、反対にMASのスペースをユーシンが活用できる見込みです。

クロスセルを進める中で、既存のお客様に生産能力についてご心配いただくこともあります。躊躇なくスペースのある拠点を活用することができますのでまったく問題ありません。

アクセス製品メーカーとして、お客様のご要望に対し、ヨーロッパ、アメリカ、ベトナム、インドネシアに至るまで、世界のどの地域でも同品質の製品を供給できる類をみない体制となります。

半導体の供給は来期後半には復活すると見込んでいますので、それまでに、これらのシナジーを確立できるように最大限の努力をしてみたいです。

これまで我々が参入していなかった二輪マーケットについても、世界シェアNo.1のホンダ様に加え、世界各国の二輪メーカーにミネベアミツミブランドで入っていけることは、非常に大きな収益をもたらすと思っています。

自動車の生産台数回復、ユーシンの構造改革の成果、ユーシンとMASのシナジー加速により、営業利益200億円は十分達成できると考えています。

自己株式取得に係る事項を決議（2023年2月3日）

- 取得株式総数： 上限 450万株
（発行済株式総数（自己株式を除く）の1.09%）
- 取得株式総額： **上限 100億円**
- 取得期間： 2023年2月6日から2023年6月23日まで
- 取得理由： 株主還元および資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するため

2023/2/3

19

株価の低迷に対する市場へのメッセージも含めまして、取得株式総額100億円、総数450万株を上限として、2月6日から自己株式の取得を開始することを決議させていただきました。

グリーンボンドを発行

グリーンボンドとしては初めての発行。
グリーンボンド・フレームワークの適格
事業（ボールベアリングの生産及び研究
開発、脱炭素電源調達）に対する新規支
出及びリファイナンスに充当予定。

社債の名称	ミネベアミツミ株式会社 第10回無担保社債 (社債間限定同順位特約付) (グリーンボンド)
発行年限	5年
発行額	250億円
利率	年0.42%
発行日	2022年11月25日

CDP調査において気候変動で「A-」 ウォーターセキュリティで「A」を獲得

英国の非営利団体CDPによる企業の気候
変動への対応に関する調査「CDP気候変
動2022」および水資源管理に関する調査
「CDPウォーターセキュリティ2022」に
おいて、各々「A-」、「A」評価を獲得。



こちらのページはそれぞれお読みいただければと思います。

私からの説明は以上です。ありがとうございました。

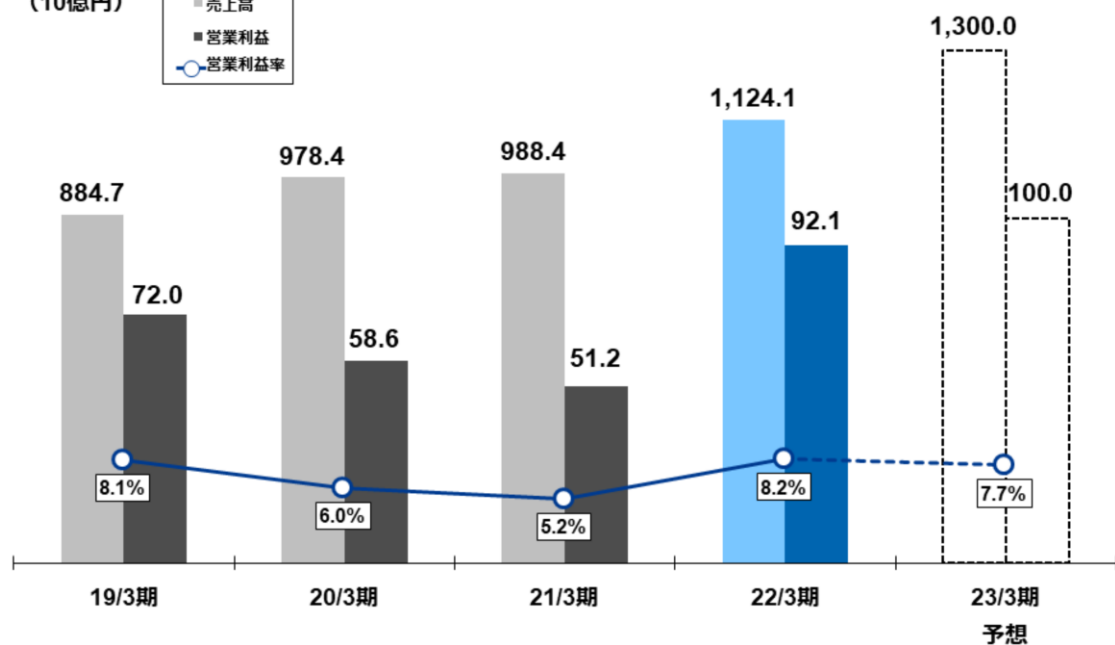
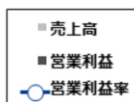


当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しています。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

参考資料

売上高、営業利益、営業利益率

(10億円)



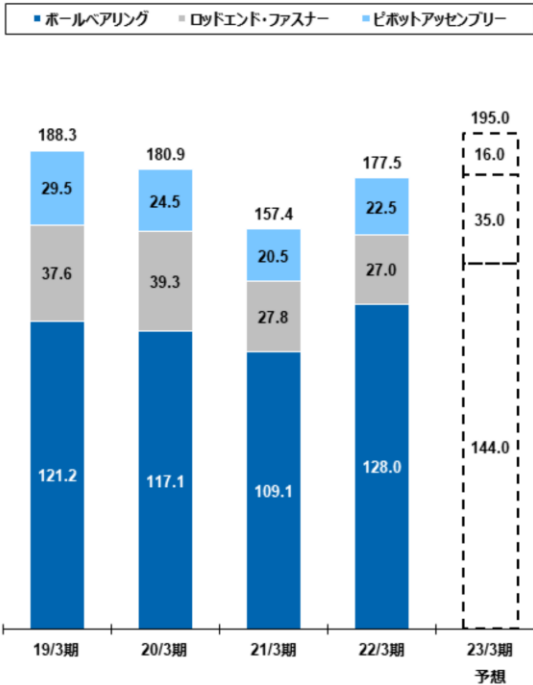
2023/2/3

23

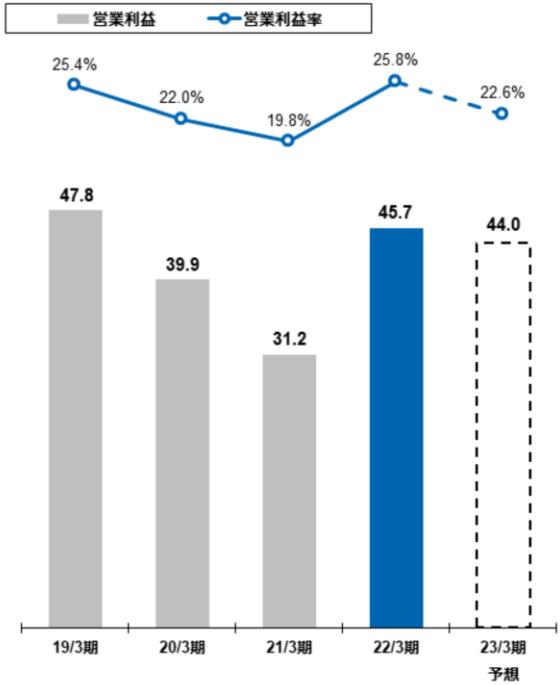
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

機械加工品セグメント

売上高 (10億円)

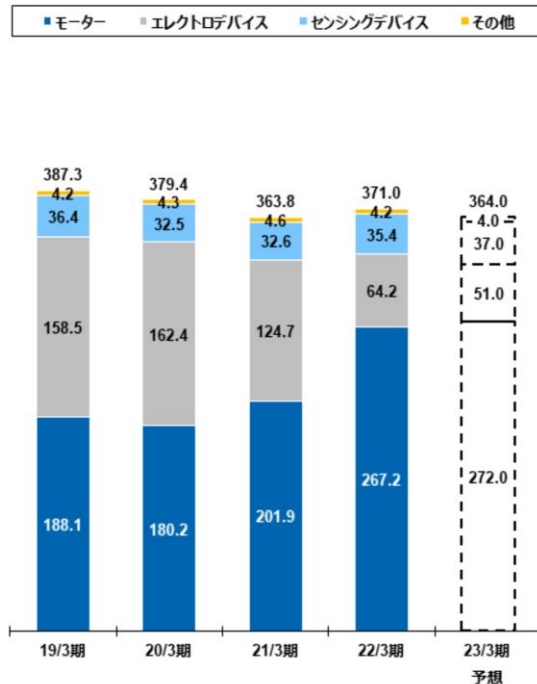


営業利益 (10億円)

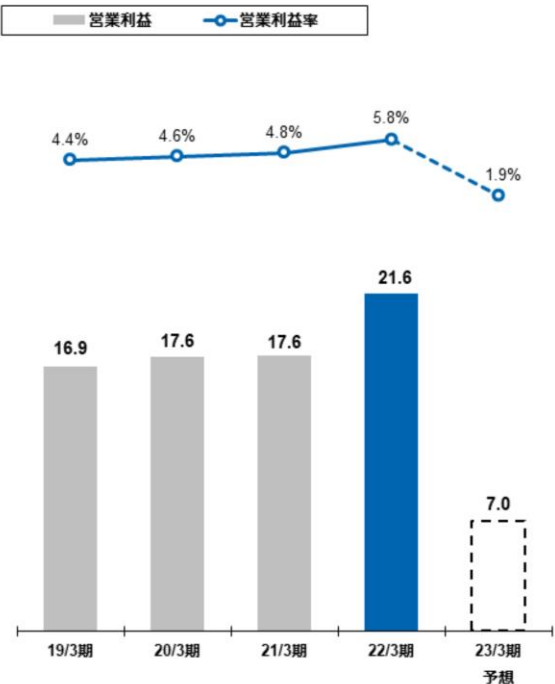


電子機器セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2023/2/3

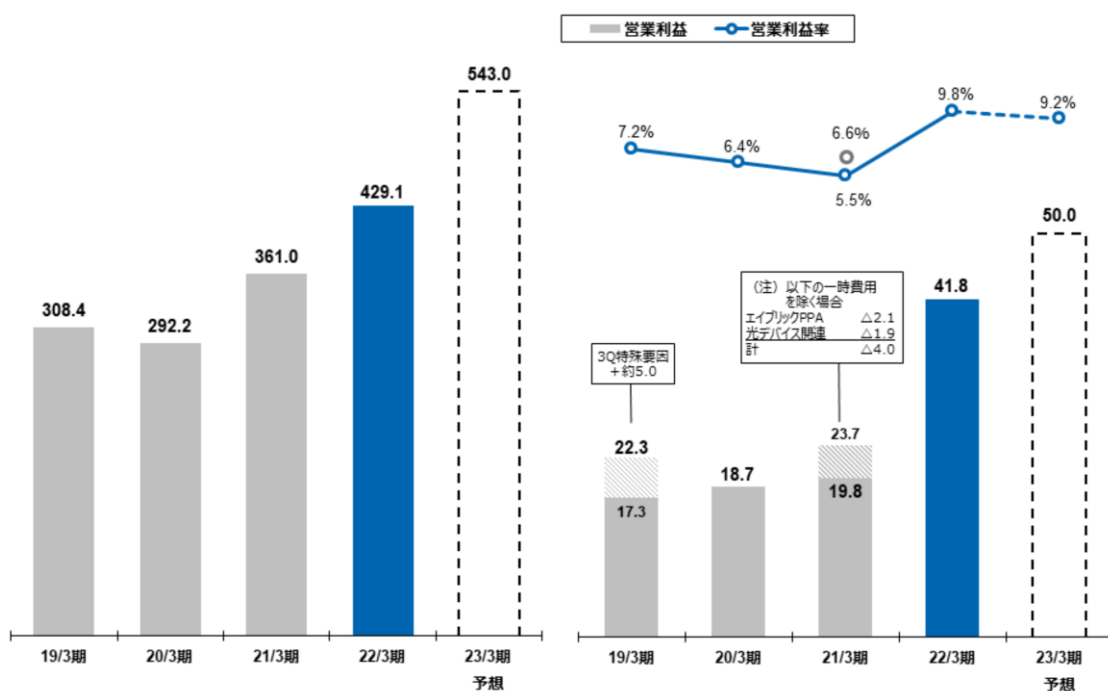
25

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference

ミツミ事業セグメント

売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)



2023/2/3

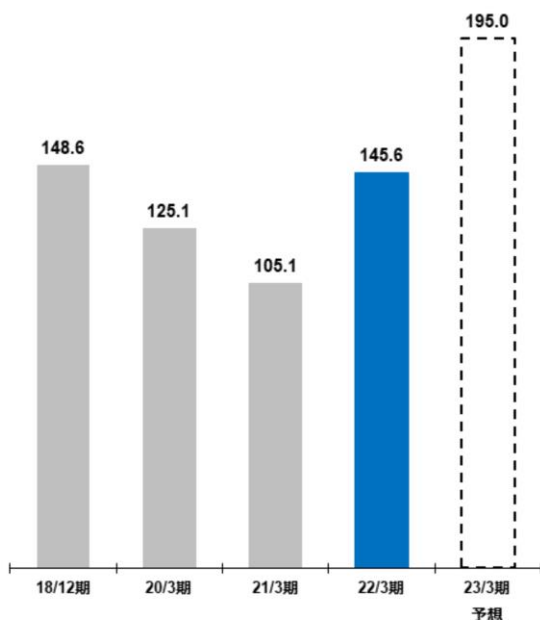
26

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

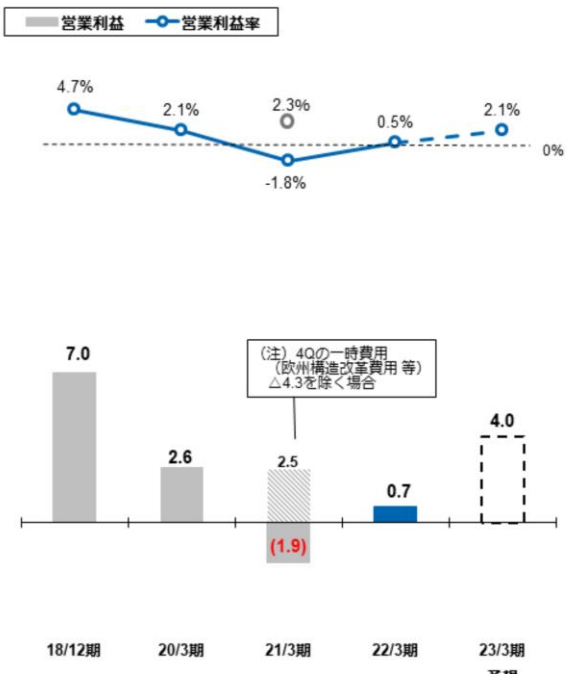
ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い
18/12期は経営統合前の参考値でJGAAP
20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



← [JGAAP] → ← [IFRS] → ← [JGAAP] → ← [IFRS] →

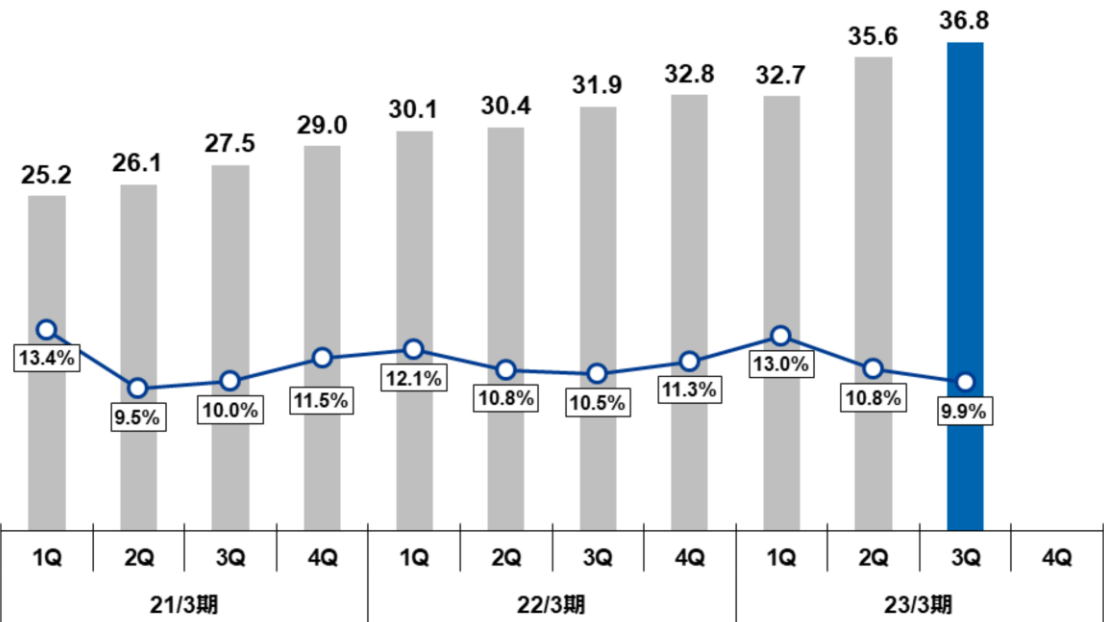
2023/2/3 27

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference

販管費

(10億円)

■ 販管費 ● 売上高販管費比率



2023/2/3

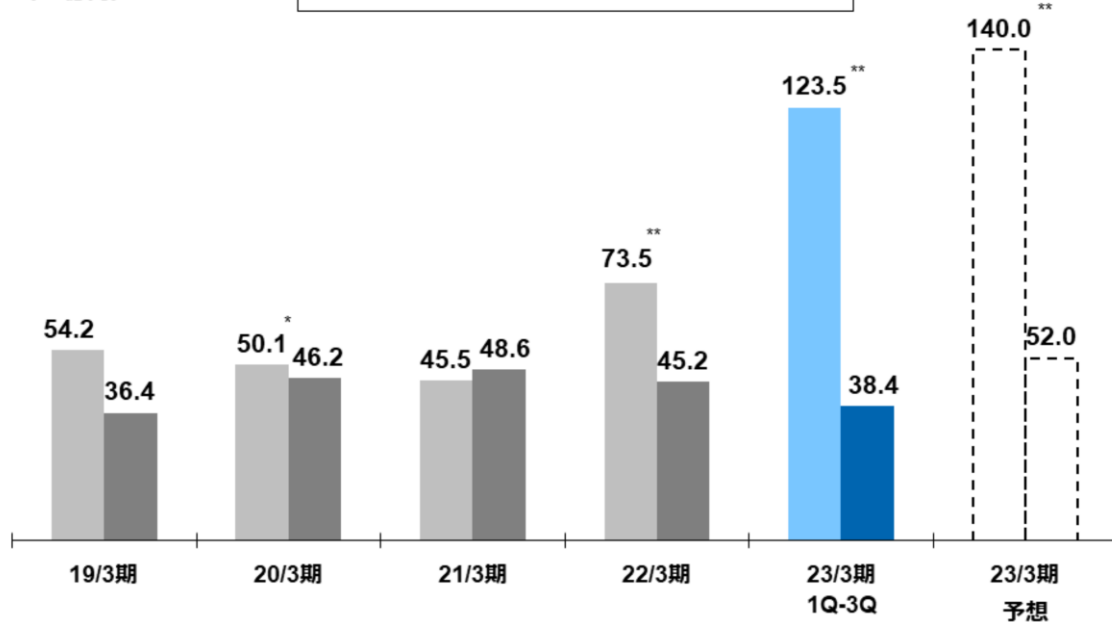
28

設備投資額・減価償却費

(10億円)

■ 設備投資額

■ 減価償却費



*20/3期 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれていません。
 **22/3期、23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。

2023/2/3

29

MinebeaMitsumi
 Passion to Create Value through Difference

ROIC（投下資本利益率）

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、
全社には含まない。その他のセグメントは18/3期はJGAAP

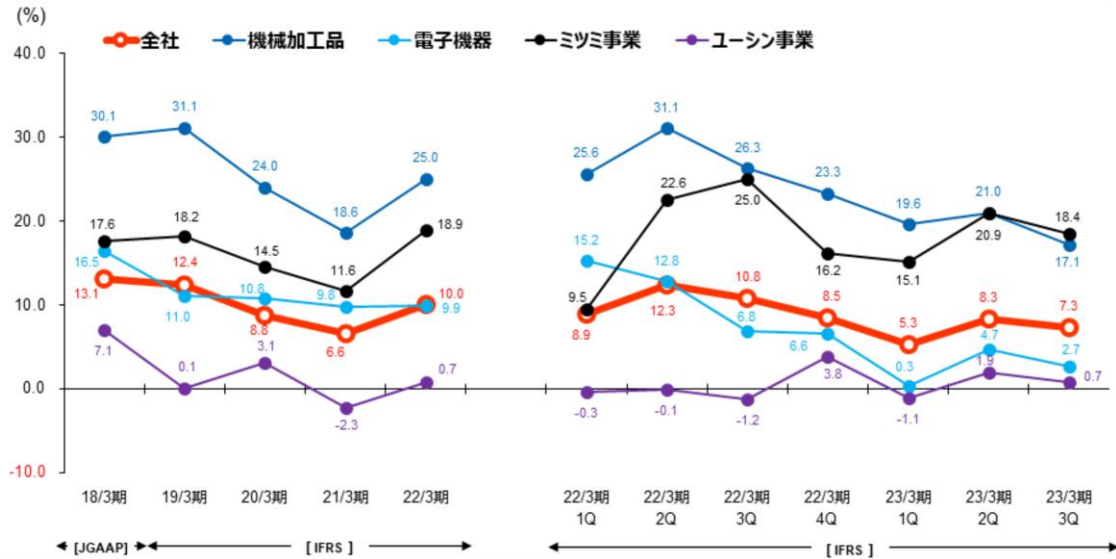
ミネベアミツミ版
ROIC

NOPAT
投下資本

(営業利益+特別損益) × (1-税率)

(受取手形・売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形・買掛金)

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出



2023/2/3

30

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference